【様式】

令和4年度　敦賀高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・学習支援	a.第1学年の新教育課程をはじめとする令和4年度の教育課程を円滑に実施し、より適切な教育課程の編成を工夫する。 目標：学期ごとにわかる度調査を行い、授業がわかりやすい、わかりやすい授業が多い：85％以上（R3は85％）	全教員がリモート授業に取り組むことができ、またICT教育も浸透してきている。文理進学科、普通科、商業科、情報経理科全体を通して、生徒の授業がわかりやすい、わかりやすい授業が多いは、86％と、学校目標の85％を達成できた。ただ、教員間で分かる度に差が出ている。	タブレットを用いた学習の効果的な利用について研鑽し、教員間で共有したい。それにより生徒の学習意欲を高めるとともに、よりわかりやすい授業の構築を目指す。 学習への取り組みが消極的な生徒に対して、生徒・担任・顧問等が連携して面談に取り組み、改善を図るよう取り組む。
	b.探究リーダーを中心に、各教科の研究テーマに基づいて、公開授業や研究協議に取り組み、授業改善に努める。 目標：公開授業は、授業の改善に役立った：90%以上。	年度当初より全教員が週に2名ずつ公開授業を実施し、11月には外部への公開授業を行った。「公開授業は授業の改善に役立った」の項目で91％を達成し成果を残すことができた。また、全教職員による探究学習研修会の実施や、担任、副担任の協力体制による総合的な探究の時間の運営など組織的に教育活動を進めることができた。ただ、この形態での公開授業は2年目であり、参観する教員が減少している。	公開授業については、ICTの活用を通して、「生徒が主体的に学習に取り組む授業」の構築を目指す。公開授業の形態を変え、教員数名で一つのグループを作り、その中で授業を参観するなど、新たな取り組みを実施したい。さらに、県教員指導力向上事業や自主研究活動事業を利用し、校内教員研修会や県外先進校視察の機会を持つことで、指導力の向上を図る。
2 生徒支援	a.けじめある生活習慣を確立し、学力の向上と部活動の振興を目指す。 目標：18時30分完全下校を徹底し、学習と休養の時間を確保する。	・コロナ禍での生活様式が変わって来ている中、保護者対象の基本的生活習慣が身についてないと感じている人が34％でほぼ横ばい。 ・18時30分完全下校に変更になったが、生徒･保護者ともに約9割が守れたと回答している。学業と部活動の両立については、生徒は出来ていると答えているの割合が8ポイントあがっているのに対し保護者9ポイント下げている。 ・早く帰れるシステムに変わったものの、その後自分に与えられた時間を上手に使えていない可能性がある。	・基本的生活習慣と文武不岐については、自分に任せられた時間をいかに有効に使えるかという支援が必要。自由時間が増えたことによるスマホ依存対策等、講演会や実態調査も実施することを行い、問題解決を図っていく。 ・SNS等の持つ負の面を提示しながら、分別のある自立した生活態度が身につくよう指導を図る。
	b.思いやりの心の醸成、規則を守る意識の向上に努める。 目標：心身を傷つける事件事故ゼロを達成する。交通ルールの遵守とともに、自転車点検を徹底し、接触事故を月1件以内に抑える。 また、SNSに関する正負両面の情報を提供し、より適切な使い方を工夫させる。規範意識の啓発のため生徒指導部便りを毎月発行する。	・規範意識（校則、交通ルール、社会のマナー･ルール）については、保護者も生徒も97％を超えている状態を維持できている。 ・自転車の整備、小屋の点検、部室の管理を徹底し、安全面、公衆衛生の向上に配慮した。 ・自転車マナー向上のための街頭指導で、特に荒い運転をしがちな裏通りの走行指導に注力した。 ・生徒との対話を通して校則改正に着手し、ある程度の前進を見ることができた。	・対話を重視した生徒支援の立場から、じっくりと話を聴く体制を模索する。 ・多様な価値観、世界観に触れる機会を設けるとともに、できる範囲で敦賀署の方による講演会を設け、交通安全対策や違法薬物等生徒を取り巻く危険性について、周知徹底を図る。 ・自分たちの学校の一員という帰属意識を高めるために、校則見直しなどの問題に生徒・教員・地域と連携しながら継続させる。
3 進路支援	a.第1志望の早期設定ができるように、生徒・保護者に進路情報を積極的に発信する。 目標:3年4月までに第1志望を確定させ、国公立大･私大･看護専門学校志望者に対し校長・教頭・進学主任面談、専門学校志望者に対し進路支援部長・学年主任が面談を実施した。専門学校また保護者を対象にした説明会、講演会、動画等を年3回以上実施する。(第1志望合格率は、R3年度3年生は、10月1日時点で120/201=59.7%、4月時点で59/201=29.4%)	3年4月時点で志望した進学先の第1志望合格率は、国立大26/81人、公立大学17/31人、私大37/54人、短大5/7人、看護専門学校3/3人、専門学校19/21人。今年度については、第1志望合格率は54.3**%で**あった。これは、昨年度コロナ禍で面談ができなかったこともあるが、昨年度4月段階よりは高い合格率と言える。次年度以降の学年にも引き継ぐ必要がある。そのためにも、早い時期に進路意識を高めることと、面談や声かけを通じて第1志望を簡単には諦めさせないことが課題となる。	進学志望生徒に、早い時期から、第1志望実現校の目標レベルとの距離を示し、第1志望合格への覚悟をもたせる。また、3年先輩と語る会、3年担任からのタイムリーレクチャーにより、受験を強く意識させる。保護者への進路情報提供についても工夫し、第1志望実現に向けての支援を行なう。次年度、生徒・保護者への動画配信、冊子配布などをclassiを利用して行う。
	b.探究学習や校外活動を推進した。志望理由書・小論文・面接の支援を通して、自己表現力やコミュニケーション能力を育成した。 目標:推薦入試における小論文・面接指導は全教職員で取り組む。今年度は、県の進学希望実現支援事業の一環で河合塾講師を招き、志望理由書・小論文講座を計3回生徒対象に行った。(R3国公立大学現役合格数 74名/7クラス,　共通テストなし24/52=46.2%、共通テストあり12/20=60,0%)	国公立大学合格率は、共通テストなしの学校推薦型選抜・総合型選抜、25 /40人=62.5%、共通テストあり学校推薦型選抜は21/34=61.8%で、共通テストなし推薦の合格率は、過去10年で1番良く、合格人数は7番目であった。探究活動を推進し、生徒が活動を多く行っていたことと教職員全員で行う個別支援の充実の成果であると言える。校外での探究活動などについては、1年次からの積み重ねが必要であり、全体に情報発信するだけではなく、面談等を通じて、進路志望を聞きながら、一人ひとりに合った情報提供と支援が課題となる。	1年次から探究学習に取り組む意識付けを行うためには、先輩・教職員・外部講師からの話など様々な工夫が必要である。また、休日に校外で活動することなどから、部活動顧問との連携も大切となる。小論文・面接・志望理由書支援については、生徒研修・教職員研修など学び合いが大切となる。
	c.模擬試験を活用し、基礎学力の定着と応用力の育成を図る。 また、難関大学二次対策を前提にした突破力の育成を図る。 目標:自走する力をつけ、国公立大学一般試験合格レベルの生徒GTZのB1レベル以上を増やし学校全体の平均偏差値を上げる。難関大志望者に対し、より多くの合格者を出す。R3国公立大学現役合格数 74名/7クラス （ 東工大1、名古屋大1名)6月総体後、3年生難関大志望者と大学進学の課外希望者に、1･2年生は週1日7限目課外を実施する	R4年度の3年生は国公立大学の前期試験22/49=44.9%、中後期試験は、12/26=46.2%であった。難関大学合格は、大阪大1、名古屋大3、神戸大2、であった。総体後、各教科の補講を行った。9月からは数学の難関大学課外を週2回行った。今後、県大学進学サポートセンターなど、難関大学合格には外部機関との連携も必要となる。2年生については、「マナビジョン」を利用し、e-Spire, Ai-growなども新たに導入した。放課後には、ハイレベル課外「敦高塾」を4月から週1回英語・数学で行った。1年生について、classiの有効活用ができており、7月、11月、1月模試において成績向上へ繋げることができた。	模擬試験の分析を行い、振り返りの時間を設け、面接を通じて生徒へのフィードバックすることで、自走することを狙っているが、実際に自走できているかclassiなどを通じた検証が必要である。校内では、夏・冬のセミナー、シニアティーチャーの利用、校外では県の進学サポート、駿台サテネットなど外部機関と連携しながら、基礎学力から難関大学突破を目標とするレベルまで、対策を進める。
	d. 1年次に、2年生が行う進路行事に参加する。目標:1年次において目標とする進路を決定する。	先輩と語る会に、1年生の就職志望も参加し、進路意識を高めた。明確な進路目標を持っていない生徒もおり、就職への意識向上を図ることができた。	学年会との情報交換および意思疎通に努め、進学と就職希望で迷っている生徒に対して、進路支援部としても積極的に面談を行っていく。学年会との連携を取り、2年生の就職関連行事へも1年生の参加をより一層促す。
	e.2年次 インターンシップを通じ、望ましい勤労観を育成する。また、10月と1月に就職面談を実施する。 目標:就職希望から志望への意識改革	商業科・情報経理科の2年生全員と普通科の就職志望生徒対象にインターンシップを実施した。1月に内定者と語る会、10月・1月に就職主任面談を実施し、就職への意識向上及び企業研究・就職研究へ結びつけた。また、公務員試験の受験対策については、12月の就職ガイダンス後、開始した。	学年会との情報交換を密にし、進学と就職で迷っている生徒をより早期に把握し、就職担当教員が情報提供や相談をこまやかに行う。生徒が、主体性をもって、就職情報収集に努めることができるよう、情報発信や掲示を工夫する。ハローワーク、関係機関との連携を一層強化し就職支援に努める。

	f.3年次 自己の適性及び志望を理解し、望ましい職業（業 種・職種）の選択ができるよう、小豆な面談を実施し、生徒の志望理解に努めた。 目標:民間企業志望者と公務員志望者の志望進路実現	民間企業15人と公務員7人の全員が内定を得た。就職志望生徒について、ハローワークとも連携しながら就職支援を進めることができた。求人閲覧ソフトHandyを利用して、求人情報を調べやすくした。就職面談を数多く重ねる中で、職種を理解してもらいながら、生徒の希望就職先内定に結びつけることができた。企業合同説明会が5月と7月に開催され、企業の研究・理解を深めることができた。	特に、就職先企業とのミスマッチがないように、生徒への情報提供、会社研究、就職説明会や関連行事への参加を後押しする支援を行う。求人情報については、生徒たちが主体性をもって、Handyなどを利用して、効率良く求人情報に触れられるようにする。就職志望者と継続的な個別面談を行い、企業からの情報提供や生徒の希望職種の理解に努める。
4 保健管理・教育相談	〈保健管理〉 a.保健委員会活動や大掃除を通して、清掃活動がより効果的に行われるようにして、生徒自ら校内環境を整える意識を高める。 目標：意識向上のため、清掃重点項目を作成し、点検を各学期ごとに1回または年間3回実施。	・生徒の98%が清掃活動ができ、ゴミの分別も97%ができたと回答している。しかし、部活動のゴミについては分別が不十分なケースがあった。 ・大掃除は、コロナ禍の影響から十分機能しない場合があった。外清掃については関係各部活動の協力により実施できた。今年度の「松原清掃との同時並行開催」は継続したい。	・大掃除の時のみのアピールではなく、年間を通して重点ポイント明示を継続して、生徒の清掃活動をより取り組みやすくする。 ・大掃除の際には、放送委員会と協力して、清掃強化の呼びかけをさらに徹底することで、美化意識を高めたい。
	〈保健管理〉 b.健康安全に関する指導を強化する。 目標：保健関係の通信を月2回以上発行、掲示物を月１回作成。	・今年度はコロナ禍の中で生徒96%、教員98%が感染予防や健康管理ができたと回答しているが、感染者は出ており、各個人の意識向上も必要である。 ・手洗い・マスク・換気の徹底に関して，登校時や朝ST時各学年会の協力で注意喚起した。 ・通信や掲示を通じて、健康情報をタイムリーに発信できた。	・教室換気や黙食について、全員がいっそうの問題意識を持つことが必要不可欠。保健委員の活動も交えて啓蒙していく。 ・保健LTでは、性と命について講演を行った。生徒たちはしっかりと考えることができた。来年度も内容を検討しながら継続予定。 ・通信や掲示の充実を保健委員会の活動として継続していく。
	〈教育相談〉 a.教職員・家庭・関連機関と連携を密にし、個別支援の充実を図る。 目標：欠席の続く生徒については学年会や専門機関との連携を強化するとともに研修会を年2回開催する。	・各学期中も調子を崩す生徒はいたが、その都度教員間や家庭と連携をとりながら個別の対応を行った。ただ、相談室登校から教室へと戻るのに時間のかかる生徒も見られた。 ・医療、発達支援センター、教育総合研究所など生徒の状況に応じて専門機関と連携を取ることができた。 ・研修会については、来年度の通級実施を見据えて実施することができた。	・特別支援の生徒については必要に応じて教科担任会を開くなど情報を共有しながら生徒の特性を理解し連携を図る。相談室登校の生徒については各学年会の協力を増やして対処していく。 ・不登校の生徒については、学年会と連携し早期に関係する教員が集まり支援の方向性を話し合う機会を持つ。
	〈教育相談〉 b.2分間面談等から特に悩みを抱える生徒については面談等を継続して行う。 目標：学教評価アンケートの「相談したいことがあるとき先生に相談することができた」の回答80%以上。（R3:81%→R4:88%）	・学校評価のアンケートから「相談したいことがあるとき先生に相談することができた」と回答した生徒は88%であった。相談相手としは担任を中心に、2分間面談をきっかけに自分のことやクラスのことを保健室や相談室に相談に来た。 ・スクールカウンセラーとの面談も多く利用され、生徒だけでなく保護者や担任と面談をもった。専門家としての見立てやアドバイスをしてもらうなど、大きな支えとなった。	・生徒によっては保健室で相談をする場合があり、担任や養護教諭との連携を密にし、場合によっては外部の専門家の面談を推奨する。 ・保護者が相談の窓口として教育相談室を認知できるようにホームページ等を利用するなど工夫する。
5 安全・設備管理	a.地震・火災や津波を想定した避難訓練や原子力防災訓練などを通して、防災意識の向上と防災体制の充実に努める。 目標：近年発生している実際の災害を想定した避難訓練、その他訓練、安全講話を実施する。	水防法等の改正に伴い、昨年度危機管理マニュアルを改訂したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、避難行動を伴う訓練を行うことができず、２年連続のGoogleMeetを使用した配信形式での避難訓練となった。改訂後の避難計画が効果的に機能するか検証することができていないので、来年度以降、確認する必要がある。緊急地震速報訓練は授業中に実施したが、各教室とも適切な行動がとれていた。	・避難訓練は基礎的な訓練を確実に行うことが重要であるが、より実践的な内容を検討し、生徒と教職員の防災意識の向上を図る。 ・防災情報受信機は事務室に設置されているため、事務職員との連携を再確認し、作動確認を確実に行う。 ・令和6年度までに学校防災アドバイザーの派遣事業を活用し、専門的な見地から避難訓練や避難計画の見直しを図る。
	b.施設設備の保全と営繕に努め、特別な支援が必要な生徒にも配慮しつつ、安全性を備えた安心感のある施設環境を確保する。 目標：危険箇所・施設設備点検を毎学期実施し設備保全に努める。教室の机・椅子の修繕率8割以上を目指す。	・危険個所の把握や施設設備点検を年間を通じて3回実施し、迅速な対応に努めた。清掃監督場所ごとに点検を依頼したため、点検箇所の漏れは生じていない。 ・破損箇所や故障した備品については、事務室および校務員室と連携を取りながら速やかに修理修繕を行った。 ・教室の机・椅子の修繕率は、ともに100%を達成した。	・危険箇所ならびに施設設備点検は前期・後期とも数回に分けて実施し迅速に対応する。危険個所の報告にGoogleフォーム等の活用も検討する。 ・教室内の備品については、担任や教科担任から聞き取り調査を行い、各メーカーの新製品情報も参考にしてより一層の充実を図りたい。 ・机・椅子については、耐用年数を超えて使用しているものが多く、修繕も困難なため、新規購入による入れ替えを今後も計画的に進めていく。
6 図書支援	a.LT図書館オリエンテーションや朝読書などの読書指導の充実を図り、読書習慣の啓発に努める。 目標：生徒年間図書貸出冊数2,500冊 （R3 3/15現在 2,762冊）	・１年生図書館オリエンテーションを実施し、図書館の利用方法、おすすめの書籍等を案内することができた。 ・自習時間などを利用したブックトークを実施し、併せて特設コーナーで読書啓発を進めることができた。 ・生徒年間貸出冊数は2,317冊であり、学年別では3学年650冊、2学年860冊、1学年807冊であった。	・探究学習などでの図書館利用や学部研究など進路指導、学校行事での資料提供など、図書館活用を広く呼びかける。 ・LTや、通常の授業での図書館利用を呼びかけ、図書館利用の機会を増やす。 ・今後も学校行事や季節のイベントに合わせて設置する特設コーナーを充実させ、関連図書を紹介し、貸出冊数の向上につなげる。 ・読書週間を9月の学校祭後に持って行き、落ち着いて読書に取り組む習慣を身につけさせ、生徒の読書啓発を進める。貸出期間も学校の状況に応じて柔軟に対応し、書籍を借りやすくする。
	b.各部署との連携を図りながら、敦賀高校ホームページやnote、Lineなどを通じて、敦賀高校の取り組みや魅力を発信する。 目標：ホームページまたはつるの一と保護者閲覧率70%。（R3 61%）	・ホームページやnote、Lineなどで生徒や保護者へ情報の提供に努め、頻繁にホームページを更新し、極力タイムリーな情報発信を行った。レイアウトやコンテンツについて、魅力あるものとなるよう改良を続けた。	・ホームページやnote、Lineなどで情報の公開と蓄積に努めながら、校内の情報収集をより円滑に行う。 ・毎月、月間計画を閲覧しやすいように工夫して掲載していく。年間計画も別途掲示する。 ・保護者閲覧率は63%だったので、さらなる工夫、情宣をしていく。